

OLYMPUS

OLYMPUS VISION

第152期 中間株主通信

2019年4月1日～2019年9月30日

100
YEARS
Endeavor for Better

証券コード:7733

TOP INTERVIEW

オリンパスを次の100年も続く
「サステナブルな企業」へ変革します。

竹内 康雄 取締役 代表執行役 社長兼CEO



当上半期の業績についてご説明ください。

売上高は、医療分野が全社業績を牽引し、為替を除く実質ベースで上半期は5%の増収となりました。営業利益は上半期実績として過去最高となる509億円を計上する等、全利益項目で大幅な増益を達成しております。今期は販売費及び一般管理費の削減を大きな目標としていますが、上半期では前年同期比で157億円減少しました。その結果、

2020年3月期 上半期実績 連結業績

	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	前年同期比
売上高	3,818 億円	3,892 億円	+2%
営業利益	30 億円	509 億円	+1,606%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	△55 億円	361 億円	—

販管費率は50.5%となり、前年同期比で5.1pt減と大幅に改善しました。全社で効率化の推進を進めており、その成果が結果に結びついたと考えています。当期利益は、営業利益が大幅に改善した結果、361億円となりました。

事業別に振り返りますと、医療分野（内視鏡事業と治療機器事業）および科学事業ともに過去最高の売上高を更新しました。内視鏡事業は成長ドライバーとなっている中国を主要因に、消費税増税前の駆け込み需要が見られた日本においても売上が増加したことに加え、販管費の効率化等により、増収増益となりました。治療機器事業は、全領域において売上を拡大し、堅調に推移しました。科学事業は生物顕微鏡・産業製品ともに好調に推移したことに加え、増収効果および販管費の効率的なコントロールにより、上半期として過去最高の営業利益となりました。映像事業は、ミラーレス一眼の厳しい事業環境等に加え、生産拠点再編の影響により新製品の導入が下期となっているため、減収となりましたが、昨年の一時的費用が発生していないことにより、損益は改善しています。通期見通しについては期初見通しから変更はございません。Transform Olympusに伴う先行投資や上半期の費用発生の遅れも考慮し、前回公表値を据え置いています。

戦略目標と業績指標

今年オリンパスは創立100周年を迎えました。
今の思いをお聞かせください。

2019年10月12日、当社は創立100周年を迎えました。100周年を迎えられたのは、お客さまや取引先、そして株主の皆さま等、多くの方からご支援いただいたからこそ成しえたことです。改めて皆さまに深く感謝申し上げます。今後、真のグローバル・メドテックカンパニーへ飛躍するために、全社員一丸となって尽力してまいりたいと思っておりますので、引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

11月に経営戦略を発表しました。
主な成長戦略について教えてください。

2019年11月、新たな経営戦略を発表しました。これは中期経営計画「16CSP」に置き変わる新たな経営戦略となります。16CSPは医療事業を中心に必要な投資を実施し着実な事業成長を実現したものの、各国の法規制が強化され、新製品の導入が遅れたこと等を主要因に、残念ながら16CSPの業績目標は未達に終わりました。市場環境の変化を把握し、先を見据えて迅速に行動に移していく必要があったと、課題を認識しております。今回発表した経営戦略では当社が目指すべき将来の方向性を示しており、長期的に年売上高成長率5-6%、営業利益率20%以上、治療領域におけるリーディングポジションの獲得を目指します。事業戦略は毎年環境変化に合わせて常に最善のアクションプランを実施する予定です。

私は会社の100周年という節目に社長に就任しました。オリンパスを次の100年も続く「サステナブルな企業」に変革し、私たちの存在意義「世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現」に貢献し続ける会社にすることが私の使命だと考えています。サステナブルな企業になるためには、顧客志向でスピード感と効率性を意識した風土が根付き、市場環境の変化に迅速に対応できる組織である必要があります。今後、グローバル・メドテックカンパニーとして飛躍していく道において、従業員一人ひとりが生産性を意識したハイパフォーマンスな企業文化への変革は避けて通れません。私が先頭に立ち、従業員と丁寧にコミュニケーションを図りながら、会社全体の企業文化を変革していきたいと考えています。



世界をリードするメドテックカンパニーへと成長し、革新的な価値によって患者様、医療従事者、医療機関、医療経済にベネフィットをもたらし、世界の人々の健康に貢献する



年率**5-6%**の売上高成長率を持続



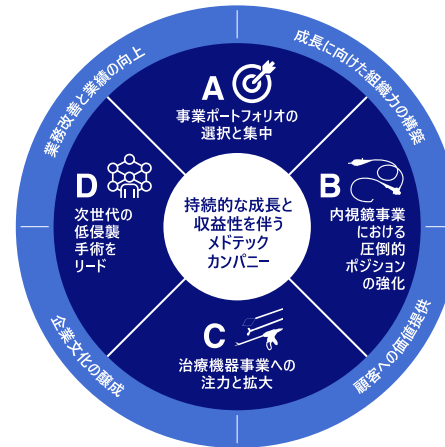
>20%の営業利益率¹を目指す



当社が注力する治療領域において**リーディングポジション**を獲得
(消化器科、泌尿器科、呼吸器科)

¹ 特殊要因調整後

経営戦略



A

医療分野を軸にした事業ポートフォリオ

B

リユース内視鏡の競争力堅持
シングルユース内視鏡によるポートフォリオ拡充
内視鏡の販売・サービスモデルの強化
保守サービス、症例ベースのビジネスモデルにシフト

C

市場セグメンテーションによる治療機器事業の成長加速
(消化器科、泌尿器科、呼吸器科)

D

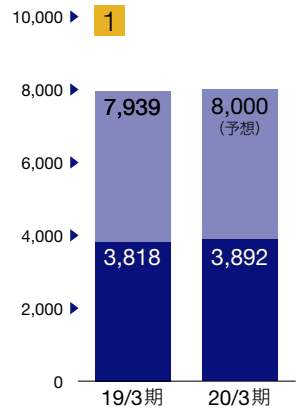
医学的有用性、経済性の向上に寄与する統合技術を導入し次世代の低侵襲手術における競争優位性確立

業績の推移

1 内視鏡事業、治療機器事業および科学事業が堅調に推移し、増収（為替影響除き+5%）

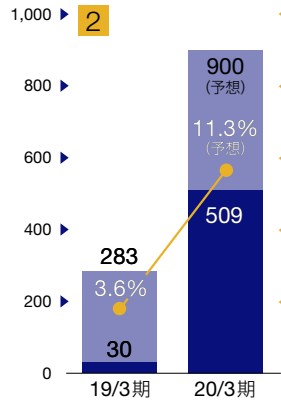
■ 通期 ■ 上半期

売上高 (単位: 億円)

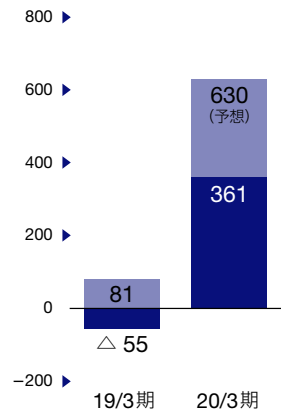


2 販管費の全社的な効率化推進と前期に発生した一時費用の減少により、上半期として過去最高の営業利益

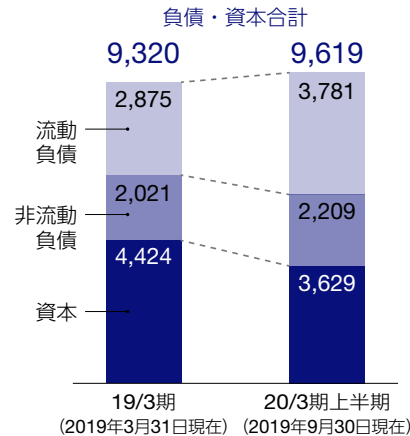
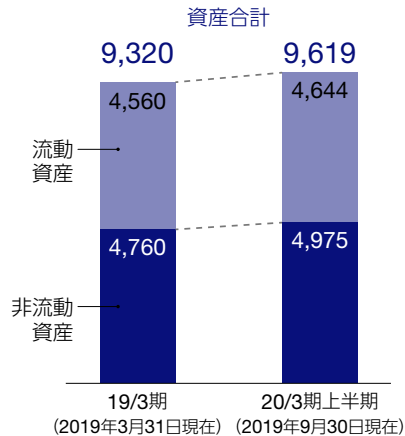
営業利益および営業利益率 (単位: 億円)



親会社の所有者に帰属する当期 (四半期) 損益 (単位: 億円)



財政状態 (単位: 億円)



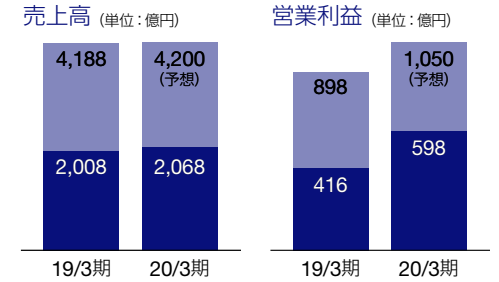
事業別の概況

■ 通期 ■ 上半期



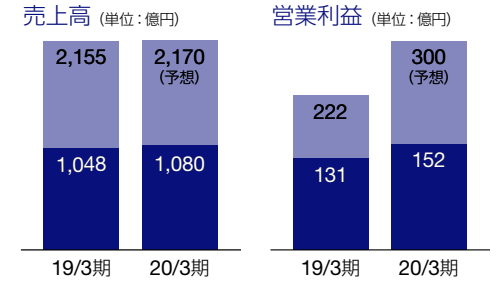
内視鏡事業

売上高
2,068 億円
営業利益
598 億円



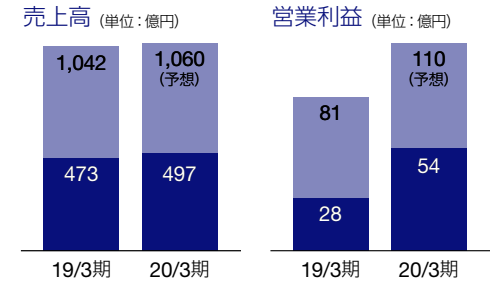
治療機器事業

売上高
1,080 億円
営業利益
152 億円



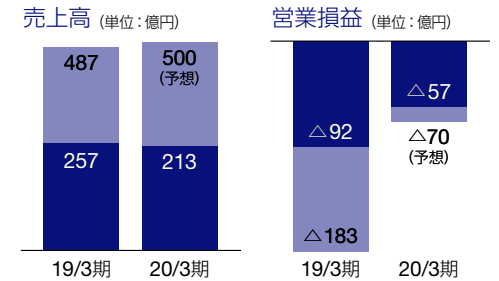
科学事業

売上高
497 億円
営業利益
54 億円



映像事業

売上高
213 億円
営業損益
△57 億円



オリンパス、100年の歩み

2019年10月12日、オリンパスは創立100周年を迎えました。次の100年に向けて私たちの存在意義である「世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現」を全うするために革新的な企業文化を醸成し、持続可能なグローバル・メドテックカンパニーとして成長を続けます。

1919年に創立

創業者 山下長（やましたたけし）は、顕微鏡の国産化を目指し、「株式会社 高千穂製作所」を1919年に創立しました。その翌年に国産の顕微鏡「旭号」を発売し、1930年代にはカメラ事業に進出、1950年には世界で初めて胃カメラを実用化することにも成功しました。



山下長

数々の世界初を実現！

これまでオリンパスは、数多くの世界初の製品や技術を世に送り出してきましたが、その中から代表的なものを4つご紹介します。社会に向けて新しい価値を創造するという精神は、最初の製品を世に送り出してからずっと、今日まで受け継がれています。



ガストロカメラ

1950年、世界で初めて胃カメラの実用化に成功。



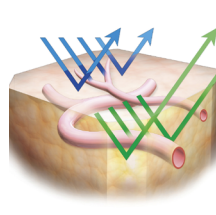
オリンパスペンF

1963年、世界初のハーフサイズ一眼レフカメラを発売。



New VANOX AH2

1983年、オートフォーカス機能を搭載した世界初の顕微鏡を発売。



NBI (Narrow Band Imaging)

早期がんなどの発見に貢献する、狭帯域光観察技術。2006年発売の内視鏡システムに世界で初めて搭載。

主力製品の消化器内視鏡は世界シェア7割

2019年3月期の当社の売上高は7,939億円。そのうち、約8割は医療分野*の売上高です。内視鏡等のキャピタル（設置型）製品や、処置具やエネルギーデバイス等のシングルユースデバイス（消耗品）をラインアップとして揃えています。その中でも消化器内視鏡は世界シェア70%と、No.1のポジションを築いています。

※内視鏡事業と治療機器事業



消化器内視鏡ビデオスコープシステム

売上高の8割が海外

オリンパスの海外進出の歴史は古く、1960年代には欧州と米国に現地法人を設立しています。その後、各地域での販売・サービス体制を整え、グローバルな事業展開を加速してきました。今や海外での売上が約8割を占めています。



米国の現地法人

グローバル・メドテックカンパニーへの飛躍を目指して

2019年1月、グローバル・メドテックカンパニーへの飛躍を目指して、企業変革プラン「Transform Olympus」を発表しました。今後、持続的な成長を実現していくためには、グローバルな医療機器企業に伍する効率性やスピード感を獲得する必要があると考えており、その実現に向け、各種施策を実行しています。

2019年11月には「経営戦略」を発表。世界をリードするメドテックカンパニーへと成長し、長期的に年率5-6%の売上高成長率、営業利益率20%以上を目指します。

株式会社および会社の情報 (2019年9月30日現在)

会社概要

設立	1919年10月12日
資本金	124,606百万円
従業員数	35,969人(連結)
本店	〒192-8507 東京都八王子市石川町2951番地
本社事務所	〒163-0914 東京都新宿区西新宿2丁目3番1号 新宿モノリス (03)3340-2111(代表) https://www.olympus.co.jp/
事業場	八王子市(東京都)、上伊那郡(長野県)、西白河郡(福島県)
支店	札幌、名古屋、大阪、広島、福岡
営業所	新潟、松本、静岡、金沢、京都、岡山、松山、鹿児島
海外拠点	アメリカ、ドイツ、イギリス、中国、シンガポールほか

取締役

竹内 康雄
笹 宏行
シュテファン・カウフマン
古閑 信之
清水 昌
藤田 純孝*
片山 隆之*
神永 晋*
木川 理二郎*
岩村 哲夫*
榎田 恭正*
名取 勝也*
岩崎 淳*
デイビッド・ロバート・ヘイル*
ジミー・シー・ビーズリー*

※社外取締役

執行役

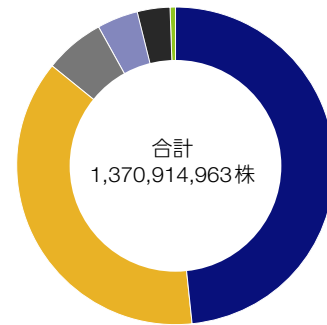
代表執行役 社長兼CEO	竹内 康雄*
執行役 チーフオペレーティング オフィサー(COO)	田口 晶弘
チーフテクノロジー オフィサー(CTO)	小川 治男
チーフファイナンシャル オフィサー(CFO)	境 康
チーフアドミニスト レイティブオフィサー (CAO)	シュテファン・カウフマン*

※取締役兼職者

株式状況

発行可能株式総数	4,000,000,000株
発行済株式総数	1,370,914,963株

株式の分布状況



■ 外国人	665,631,107株	48.6%
■ 金融機関	510,950,896株	37.3%
■ 自己株式	85,336,052株	6.2%
■ 個人・その他	56,626,292株	4.1%
■ その他国内法人	47,956,925株	3.5%
■ 証券会社	4,413,691株	0.3%

「オリンパスミュージアム」リニューアルオープン



オリンパスの技術歴史館として長年親しまれてきました「瑞古洞」が創立100周年に伴い、「オリンパスミュージアム」として生まれ変わりました。瑞古洞では創業時から現在にいたるまでの製品を展示し、当社製品がどのように社会の発展に貢献してきたかを紹介してきました。

今回のリニューアルでは、創立から100年間築き上げてきた多くの方たちの偉業・挑戦・夢を「みる」ミュージアムへと変わりました。創立時から培ってきた「オリンパスらしさ」を体験・体感することで、オリンパスの製品を理解して頂くことを目的としています。

ご利用案内

住所	〒192-8507 東京都八王子市石川町2951 オリンパス株式会社技術開発センター石川内
開館時間	10:00~17:00(最終入館は閉館30分前まで)
休館日	土・日・祝日・年末年始および会社休日 当社営業日カレンダー
入館料	無料
電話	042-642-3086
見学申し込み	見学のお申し込みは、予約制となります。お電話でご予約ください。 見学について ※説明員が基本プログラムに沿って館内各ゾーンをご案内いたします ※ご案内時間は約60分です。ご調整できますのでご予約の際にご相談ください ※館内での写真撮影は可能です

企業情報アプリ「OLYMPUS NEWS」のご案内



OLYMPUS NEWSは、オリンパスの企業情報をタイムリーにお届けする公式アプリです。ニュースリリースや決算情報、医療・科学・映像事業の新製品情報、当社のカメラユーザーが撮影した素敵な写真などを毎日配信します。また、オリンパスが出展・開催するイベントや、製品の発売日がわかるカレンダー機能で、スケジュールを確認することができます。



App StoreやGoogle Playで「オリンパス」と検索しても見つけることができます。